

# ボランティア♥通信 Vol.30

2019年4月1日発行

上智大学ボランティア・ビューロー (2号館 1F 学生センター⑧窓口)  
Tel : 03-3238-3525 Mail : volunteer@cl.sophia.ac.jp  
Twitter : @SophiaVolante



ボランティア・ビューロー窓口には、多くのボランティア情報を用意しています！お気軽に足を運んでください。

## 後輩に贈るボランティア報告会



3月19日(火)、ボランティアぷらっとほーむ主催／ボランティア・ビューロー共催で「後輩に贈るボランティア報告会」を開催しました。

この報告会は、在学中にボランティア活動に積極的に取り組み、3月に卒業する学生から、自身の在学中のボランティア活動経験、活動を通して成長したことなど、在学生に伝えたいメッセージをお話するもので、ボランティア系課外活動団体等で活躍された5人の方に登壇いただきました。後半は懇親会も開催し、活発な情報交換が行なわれました。

在学時の経験を胸に、社会に羽ばたいていく頼もしい先輩たちの姿に、ボランティア活動とは、「してあげる」といった一方的供与のものではなく、人との出会いや見地のなかで様々な経験をさせていただける、相互成長の場であることを改めて感じました。



白石 恵那さん (ソフィアボランティアネットワーク)

2年次の4月に起きた熊本地震をきっかけに、所属していたソフィアボランティアネットワーク内の九州復興支援プロジェクト「ボラきゅう」を立ち上げた。現地の視察や防災ウィークでの発信、現地ツアーの運営などの活動を行い、継続的・自立した活動という価値観を軸に、現在も続く活動へと引っ張ってきた。



山岡 大地さん (CeeK)

カンボジアの子どもを対象とした課外活動団体CeeKで1年次から活動に参加し、3年次には代表も務めた。鉛筆、洋服、衛生(歯磨き)といったプロジェクトがある中で特に洋服プロジェクトに携わった。サークル以外でも、飯館村交流や南三陸町でのツアー実施等にも参加された。



丸山 茉莉さん (ソフィアボランティアネットワーク／ボランティアぷらっとほーむ)

ソフィアボランティアネットワークに所属。1年次から積極的に活動に参加し、3年次には代表も務めた。

ボランティアぷらっとほーむでは学生センターと共に、交流イベントやボランティア未経験者対象の企画を行った。



望月 なる美さん (ドンキホーテ)

児童福祉ボランティアサークルのドンキホーテの活動に1年次から全力を注いできた。3年次には団体の会長も務めた。サークルでは、子どもに関わる様々な活動を行い、特に小学校での校庭開放や児童館での児童グループ活動の補助という形で遊びの支援に中心的に携わってきた。



柿野安美さん (MLTこどもプロジェクト)

2年次から4年次まで千代田区で子どもの成長支援を行ってきた。3年次に団体を大学公認サークルにすると共に、NPO法人化も行った。団体を通じて、貧困家庭、ひとり親家庭、ステップファミリー、不登校、DV経験のある子ども等を対象として、学習と食育への支援を行ってきた。



お名前／所属していた団体名

## 陸前高田市 P@CT訪問

陸前高田市にて特定非営利活動法人P@CT (パクト) が子ども支援活動として行なっている「みちくさルーム」「みちくさハウス」に、課外活動団体ソフィアボランティアネットワーク (SVN) が長きにわたり参加しています。この活動では、長期にわたる復興期の中で成長期を過ごしている地域の子どもたちが、安全な環境の中でのびのびと過ごすことにより、自らの暮らす地域への愛着を育み、心身共に健やかに成長していけるよう、陸前高田市米崎町内の古民家を利用して常設の遊び場・コミュニティスペースを提供しています。今回、2019年2月23日(土)～24日(日)の行程にボランティア・ビューローも帯同し、様子を見学させていただきました。



東日本大震災で、陸前高田市は津波により大きな被害を受けました。

小学校の校庭に仮設住宅が建てられたり、沿岸部のかさ上げの工事で遊び場を失った子ども達に、子どもらしい時間を提供するお手伝いをしています。子ども達の笑顔が、彼らを取り巻く親御さんや地域の方にとって未来の希望となるように、そんな願いを込めて、SVNの学生が足を運んでいます。

また、P@CTの活動では、遊びの企画や子供達の見守りだけではなく、陸前高田の「今」の見学もしています。お忙しい中、案内をしてくださるP@CTのスタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。



↑新たに建設された防潮堤は12メートルの高さです。



↑沿岸部の大規模なかさ上げ工事の様子



↑「失われた街」模型復元プロジェクト展示を見学しました。高田の松原と言われた松原は1本を残して津波で失われてしまいました。

## 活動報告書より

単純に子どもが好きだからという理由で今回初めてみちくさの活動に参加したが、子どもと触れ合うことで得られる楽しさだけではなく、それ以上に学ぶことがあった。学校や家族とは違うコミュニティで学年の違う子同士が集うみちくさハウスは、日常生活とは少し離れたもう一つの教育の場としても機能していると感じた。最近では子ども達の自然離れが進み、ケータイやデジタル機器を通しての遊びが主流になってきているが、多くの自然に触れながら外で体を動かし、自由に遊ぶ子供達の姿を見て、懐かしさを思えるとともに、安心感も得られたような気がした。

# ボランティア♥通信 Vol.30

2019年4月1日発行

上智大学ボランティア・ビューロー (2号館 1F 学生センター⑧窓口)  
Tel : 03-3238-3525 Mail : volunteer@cl.sophia.ac.jp  
Twitter : @SophiaVolante



ボランティア・ビューロー窓口には、多くのボランティア情報を用意しています！お気軽に足を運んでください。

## 熊本復興支援活動

2016年4月に発生した熊本地震から、まもなく3年を迎えます。この春休み、2つの課外活動団体が現地での復興支援ボランティア活動を交通費補助を利用して行いました。活動報告書から数人の感想などをご紹介します。

団体名 ソフィアボランティアネットワーク (SVN)

活動期間 / 人数 1期 2月11日(月)~15日(金) 10名  
2期 2月25日(月)~3月1日(金) 11名

SVNは2016年より熊本での復興支援ボランティア活動を継続しています。今回の活動では、危険住宅となった民家の納屋、被災した商店の片付けや仮設住宅でのお手伝い、熊本城・阿蘇でのフィールドワークなどを行いました。

## 活動報告書より

今回伺ったお宅の様子はどれも、「声なき声」のあらわれではないかと感じた。傾いた納屋に荷物整理をする決心がつかない方、一部崩落した建物を行政に見せると、営業が停止になるのではないかと、という理由で震災当時に助けを求めることが容易ではなかった。このように当時から一定の時間が過ぎ、ようやく行動を起こそうと決心がつく被災者もいると分かった。被災直後からボランティアのニーズというものは変化していくものだが、今回のように「遅れてやってくる」ニーズ（つまり被災直後のような労働ボランティアの要請）もまだ一部にはあるはずである。とはいえ、「声なき声」なので、こちらから気づくのは難しいことである。そのために現地で、顔の見える関係を築いているボランティアセンターの果たす役割は大きいものがある。現地のボランティア関連施設も時間の経過とともに閉鎖が進む。勿論、復興が進んでいることのはあるが、「声」をあげる場所がなくなりはないか心配である。

全体的にハードな作業が多かった。私たちボランティアが率先的にお手伝いをするのはもちろん大事なことだ。だが効率的に作業を行うこと以上に当事者にとって処分するもの全てが思い出の品、多額のお金をかけた商品であったことを忘れず、処分するに至った気持ちに寄り添いながら作業を行っていくことが重要だ。熊本の人たちの「意志の強さ」という県民性をひしひしと感じた5日間だった。活動を通して普段生活しているだけでは巡り合えないような様々なバックグラウンドを抱えた人たちと出会い、ボランティアに関してだけでなく人としてどうあるべきか、多種多様な人生観を知り学んだ。とにかく考えさせられることが多く貴重な時間を過ごした。ボランティアは自分の価値観や考え方をつめなおす良い機会になるはずだ。



← (左) 復旧工事中の橋梁。後方の斜面も地震の影響を受けて補強されています。(右) 様々な事情で、地震発生から3年経っても、被害状況から手を付けられていない家屋がまだまだあります。

団体名 僕らの夏休みProject

活動期間 / 人数 2月27日(水)~3月1日(金) 7名

僕らの夏休みProjectでは、団体内の有志で話し合い、今回初めて熊本への活動に赴きました。県内最大の仮設住宅であるテクノ仮設住宅で環境整備の活動、東無田復興委員会や他の団体の方より話を伺いました。

## 活動報告書より

ボランティアにこだわらず被災地に足を運ぶことは、テレビなどメディアでは伝えきれていない被災者の現状を理解することができると思う。被災地の街並みを見ると少しずつ復興していることが見て取れるが、被災者の方々は、被災して時間がたった今だから抱えている問題がある。被災地に足を運び、実際に話を聞いて見ることは熊本現状を知る手段として非常に有効だと考えている。現地でボランティアに参加する場合は、一度きりの関わりではなく、継続して行う必要があるように感じた。

人々が熊本地震を乗り越えることができたのは、その土地で常日頃から築いていた絆であったと感じた。震災という特異な状況の下で他人を頼り、助け合うためには、信頼関係が必要であり、熊本の人々はこのことが日々の生活からできているように思う。そして、私たちが住んでいる首都圏では近所の人とのかかわりも薄く、ほとんど信頼関係を築けていないように思う。もし首都直下地震が起きた時、どうすべきか、信頼関係を築くには何が必要かよく考えなければならぬと感じた。また、熊本の人々はあたたかく、見ず知らずの私たちに笑顔で挨拶してくれ、お見送りにも来てくださった。このような優しくあたたかい人々が未だに厳しい生活を強いられている状況を知れたことで、熊本地震を風化させてはならないと改めて感じる事ができた。

今回の企画の中で、「地震は元々あった地域課題を表出させた」というお話があった。震災や復興に対して、被災地の内外の若い力が必要であると共に、そのような人口流出やコミュニティの衰退などの地域課題に対しても若い力は重要である。特に、現地がどのような状況で何を考えているのかを知ることが必要である。今回利用した交通費補助やボランティア・ビューローの方々はその点においても非常に大きなきっかけをもたらしてくれる。知ること、さらに考えて、そして言動に表現すること、で被災地に対して意味ある一歩を一歩を一緒に歩みたい。



← 3年目を迎えようとする仮設住宅の敷地内は、整備の必要場所が様々にあります。

## 熊本での復興支援ボランティア活動は交通費補助制度の対象となります！

現地でボランティア活動を行なう際、航空券代（上限有）が助成されます。適用には事前申請や報告書の提出、対象経路等の規定があります。詳しくはLoyola掲示板（ボランティア）をご覧ください。

# ボランティア♥通信 Vol.30

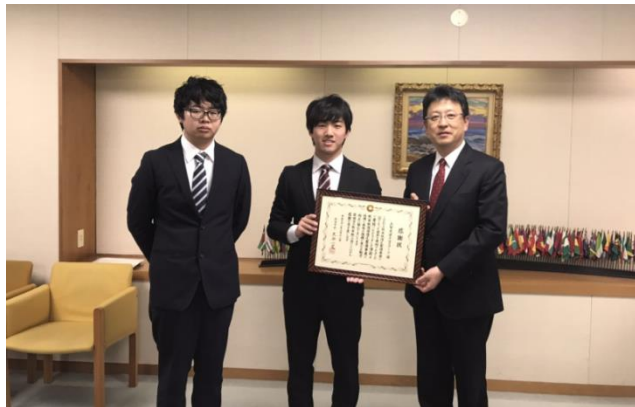
2019年4月1日発行

上智大学ボランティア・ビューロー (2号館 1F 学生センター⑧窓口)  
Tel : 03-3238-3525 Mail : [volunteer@cl.sophia.ac.jp](mailto:volunteer@cl.sophia.ac.jp)  
Twitter : @SophiaVolante



ボランティア・ビューロー窓口には、多くのボランティア情報を用意しています！お気軽に足を運んでください。

## 課外活動団体Cross Arts 熊本復興城主制度への感謝状受賞



3月12日(火)、「熊本城復興城主制度」への参加についての感謝状授与の機会を頂き、課外活動団体Cross Artsの学生(文学部史学科 村松海さん、同学部同学科 野中大成さん)が熊本市役所を訪問し、大西一史熊本市長より感謝状を頂きました。

**熊本城復興城主制度**  
「平成28年熊本地震」により、熊本城は甚大な被害を受け、その復旧・復元には長い年月と莫大な費用を要することが見込まれます。  
「復興城主」制度とは、1回につき1万円以上の寄附で「復興城主」となり、城主証や城主手形(個人のみ)をいただける制度です。寄附金は熊本城復元への費用に充てられます。



(写真)  
CrossArts  
村松さん、野中さん、熊本市長大西一史様。

- 課外活動団体Cross Arts：2012年11月に創設。大学食堂のトレイ広告に企業の広告を貼り、収益を得て、その全額をボランティア活動に寄付しています。
- 2018年4月17日～20日に学内で開催した熊本地震写真展で行なった募金活動でいただいた12,000円と、Cross Artsからの寄附金100,000円を合わせて「熊本城復興城主制度」に募金させていただきました。

### ～感謝状を頂いた感想～

我々と致しましては、10万円の募金をして熊本城の復興城主になろうという副代表野中の提案がまさか現地で感謝状を受け取るまでに至るとは思ってもおらず、この度の感謝状の受賞は一同大変光栄に思っています。また、我々のような一大学の一サークルに過ぎない小さな組織の活動を取り上げ、感謝状を授与して下さった熊本市長をはじめとした現地の方々には頭が上がりません。

我々の活動は城の完全な復興に対しては大きな力となることはできませんが、今後とも継続的に熊本城へのご支援を続けさせて頂ければと思っています。

上智大学Cross Arts一同

【熊本城の復興状況に関するレポート】  
今回訪れた熊本城の復興状況を熊本市のホームページや様々な文献を参考にCrossArts代表の村松さんがレポートしています。実際に撮影した写真を織り交ぜ、城に詳しくない人にもわかりやすくまとめられています。  
ぜひこちら [https://www.sophia.ac.jp/jpn/studentlife/svb/svb\\_tohoku.html](https://www.sophia.ac.jp/jpn/studentlife/svb/svb_tohoku.html) からご覧ください！

## 課外活動団体 CeeK 助成金受賞

一般財団法人学生サポートセンターの平成30年度(第16回)「学生ボランティア団体助成事業」に課外活動団体「CeeK」が選出され、2月5日(火)、国立オリンピック記念青少年総合センターで行なわれた授賞式に出席しました。



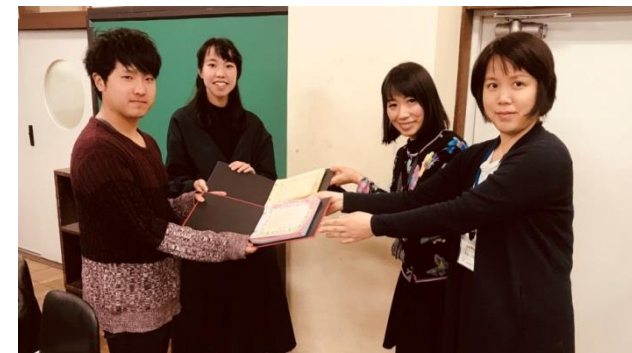
### ～受賞の感想～

今回、助成金授賞式や懇親会に参加したことで他大学のボランティア団体との交流を持つことができ、同年代の人たちが様々な視点を持ち、社会貢献できることを考えて実行していることがわかり、良い刺激を受けました。助成金をくださった方々のような多くの理解と支えがあって、私たちの活動は成り立っていることを改めて感じたので、感謝の気持ちを忘れず、CeeKの活動を更に充実したものにしていきたいです。

CeeK代表 阿部優子さん  
(総合グローバル学部 総合グローバル学科)

## 課外活動団体ドンキホーテ 番町小学校での活動

「ドンキホーテ」は遊び・学びを通じた子どもたちの発達支援を目的に活動する課外活動団体です。学校等での子どもたちとの交流のほか、児童養護施設、母子生活支援施設における学習支援などを行なっています。団体の活動の中心となっているのが、平成23年から継続して毎週土曜日に行なっている千代田区立番町小学校での校庭開放の運営です。遊びや読み聞かせでの子どもたちとの交流を行なっています。



今回、年度の締めくくりということで、児童のみなさんからのメッセージを集めたアルバムをお送りいただきました。いただいたメッセージは、遊びや読み聞かせについてのお礼から、「ケンカの時助けてくれてありがとう」「妹がいなくて遊んでくれてありがとう」という大学生の配慮に対するお礼や、「本が好きになった」「上智大生になったら読み聞かせしたい」という成長の様子まで、大学生が読んだら嬉しくなるものばかりでした。

## 学内ボランティア講座等の予定

- **手話講座 春学期 5月7日(火)～6月25日(火) 17:20～19:00 @2-402**  
テキストは自費ですが、出席状況により補助があります。初心者を対象としています。お楽しみ企画として上智大学校歌の1番をこの8回の講座で手話で習得します。
- **東京都外国人おもてなし語学ボランティア育成講座 春学期は2回開講します。**  
5月16日(木) 17:20～20:50 @L-921  
6月19日(水) 17:20～20:50 @L-921  
定員は各回60名です。毎回人気の講座ですので、Loyolaでの募集をお見逃しなく。
- **予告 5月25日(土)～26日(日) 1泊2日で東北復興支援ツアーを企画しています。**  
東日本大震災から8年が過ぎた今も、まだまだできる事はあります。新入生の皆さんを対照としています。ぜひ今の東北から学びを得ませんか？
- **2019年度も被災地復興支援活動への交通費補助を行なっています。**  
詳しくはLoyola掲示板(ボランティア)をご覧ください。

## メールリスト登録のご案内

Loyolaや学内掲示板等で案内しているボランティア情報などを、ご登録いただいたアドレスにメールでもお知らせします。手軽にボランティア・ビューローからの発信をキャッチできます。

**メールリスト(ボランティアメンバー)への登録をご希望の方は**  
[volunteer@cl.sophia.ac.jp](mailto:volunteer@cl.sophia.ac.jp)へメール  
または右のQRコードからご登録ください♪



登録フォーム

